

---

# 君に出逢った季節

結衣

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君に出逢った季節

### 【Zコード】

Z6973A

### 【作者名】

結衣

### 【あらすじ】

平凡な毎日を送ってきた中学三年生の舞。春、同じクラスになつた智に恋をする。智には年上の彼女がいた…。

## プロローグ

桜の花びらが風に舞う。

通り慣れたこの桜並木でそれを眺めゆっくと歩く。  
クリーニングから返ってきたばかりの埃ひとつない制服で。

一片の花びらが真っ黒いブレザーの上に舞い落ちた。  
手に取り、握り締め、再び開いてみる。

花びらはひらひらと空を舞つていった。  
私は立ち止まつて見上げてみる。

済みきつてしまふでも青い空が見える。

さつきまで手にあつた花びらは無数の花びらとゞじり、  
どけに行つたかわからなくなつてしまつた。

なんだか急に嬉しくなつて私は走り出す。

新しい季節へ、

新しい今日へ、

新しい出逢いへ。

わけもなく恋の予感を感じた14の春。

あなたと出逢えた14の春。

## 第一話・始まつ朝

始業式とかの日って普段より遅く始まるのなぜか  
普段より早く起きてしまつ。

性格なのがなあ、心配性で神経質。

そのくせ〇型。血液型占いなんて信じてやうない。

こんな自分つて好きじやない。

そんなことを思いながら眠りについたのが昨日。

そして今日。目が覚め時計を見るとAM08:37。

まだそんな時間か、もう一眠りしよう、

そう思つたけれどなんだか落ち着いて眠れない。

どうしてだ? 田覚めたばかりのはつきりしない頭でしづらへ考え  
る。

ああ、今日は始業式か。春休みは終わったんだ。

……よつやく氣付いた。今日から学校が始まる。

家から学校まで約一時間。始業式は10時から。

「めんなさい。私はやつぱつの型でした。

「お母さんーん！なんで起っこしてくれなかつたのーー？」

階段を駆け下りる。

あれ、なんだか静かだな、この時間なりお母さんが起きてもはずなのに。

お母さんが後ろから声をかけてきた。

「なんだつてこいつのよ？まだ6時半でしょ？」

え？確かにリビングの時計を見ると8時なんかになつてない。

どうやら田舎まし時計が止まつてただけみたい。

おかげで新学期に向けてしっかり気合を入れて準備ができた。

制服のスカートも前より短くして、髪も軽く巻いて。

マイクも少ししてみた。まだ肌に馴染んでない感じだけど。

朝食を食べながらTVを見ると星座占いの「一ノマー」だった。

血液型以上に信用できないと思つて、いて座は向位かなと耳を傾ける。

今日の1位はいて座のあなたです！運命の出会いがありそひ。

ラッキーアイテムは切手！

なんだそりや、切手が幸運を呼んでくれる？

ありえないと思つたがちょうど机の隅に50円切手を見つけたので

鞄にすべりこませる。

さて、そろそろ行くかな。

時間にたっぷり余裕をもち家を出る。

電車を降り、時計を確認。時刻は9：27。

うん、間に合つ。

この桜並木を抜ければ学校はすぐそこだから。

## 第一話・出逢いの日

AM9:43、正門に着く。

クラス替えが発表される掲示板。すごい人だかり。

あそこに入り込むのか、髪くずれるじやん。

あー嫌だ嫌だ、なんて思つてたら後ろから腕を掴まれた。

「おっはよー舞！掲示板見た？」「うちら同じクラスだよつ

中一のとき仲の良かつた恵理。いつも私を笑わせてくれる明るいやつ。

よかつた。今年一年楽しく過ごせそうだ。

私にはクラス替えってかなり重要。

クラスメイトによつて今年の運勢変わるし。

血液型より星座より信じられる占い、つてとー。

今年の運勢、4つって感じかな。

「まじっすかー？恵理と一緒にかなり嬉しいんですけどー」

「うちもー親友と同じクラスつて最高だしー！」

掲示板を見に行かずにすんだ私は恵理と2組の教室へ向かう。

がらがら・・・

ドアを開けるとすでに大半のクラスメイトが中にいた。

出席番号順の席に鞄を置くとチャイムが鳴った。

同時に担任が教室に入ってきて起立、礼。

これから的一年がビックリとか、長い話が始まる。

ぐだらねーんだよ。意味もなく爪をいじってみる。

トップコートが剥げてる。最悪だ。

左隣から手が伸びてきて机をトントンと叩いてきた。

隣り、誰だつけ?手の方向に顔を向ける。

知らない男子だ。6クラスもあると未だに知らない男子がいたりする。

「名前なんてゆーの?俺、智つづーの。よろしくねー

名前は聞いたことがある。

確か、去年かつこいいとか皆が騒いでた・・・

顔をよく見てみる。え、えええ?かなりかつこいい。

「あ、はい。よろしくお願ひします。え、えと舞です。」

動搖して上手く話せない。

「もーそんな緊張しないでー舞けやんー俺そんな恐く見えるー?」

「え、や、そんなことないよ。考え方してたから驚こいやつて。

「めんね、智くん。」

今度は普通に返事できた。

「よかつたー、早速嫌われたかと思つたし。あ、智でいいから。

「それではホールの方に向かってー・・・

担任の話が終わつたようだ。

それから始業式が終わつて家に帰つた。

夜ベッドに転がつて今日一日のことを見つ出す。

智、かつによかつたなあ。

そんなことを考えながらそのまま寝つてしまつた。

こんななんでもない一日が智と出逢つた日。

私にとって大切な大切な日。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6973a/>

---

君に出逢った季節

2010年11月20日02時33分発行